

株式会社スマートバリュー

車両管理と運転指導に貢献

クルマの安全運行を支援するIoTサービス

導入サービス：OCN モバイル ONE for Business



株式会社スマートバリュー
プロジェクト開発Division
Division Manager
上野 真氏

「NTTコミュニケーションズを選んだのは、ビジネスパートナーとしての期待もありました。新サービスの開発、グローバル展開の支援など、大いに期待しています」



株式会社スマートバリュー
プロジェクト開発Division
プロダクト推進Group
インバウンドTeam Team Leader
水上 智則氏

「回線事業者の対応レベルは、我々がお客さまにサービスを提供する際の品質に直結します。NTTコミュニケーションズは、いつもスピーディな対応でとても助かっています」

企業情報

社名 株式会社スマートバリュー

事業概要 「地域情報クラウド」「クラウドプラットフォーム」「モビリティ・サービス」「モバイル」という4つの分野を柱に事業を展開。地域の防災・防犯を担う住民情報サービス、交通事故の削減を目指すテレマティクスサービスなど幅広く社会に貢献するサービス提供に力を注ぐ。

URL www.smartvalue.ad.jp

課題

- ・クルマの安全管理に貢献する新しいIoTサービスの開発に着手
- ・サービスの実現には低コストかつ安定性の高いモバイル回線が不可欠

対策

- ・信頼性の高いNTTコミュニケーションズの3Gモバイル回線を選択
- ・対応が迅速で、顧客を待たせないサービス展開が可能に

効果

- ・的確な運転指導による事故の削減、運行スケジュールの適正化などに貢献
- ・自社開発したアプリケーションのOEM供給により、IoTビジネスを拡大

課題

クルマに関する長年の知見を活かして 新しいテレマティクスサービスを開発

「社会課題をクラウドサービスで解決すること」を事業方針に掲げ、モバイルとクラウドを軸にさまざまなサービスを提供するスマートバリュー。創業当初から自動車機器に関する事業を手掛けてきた強みを活かし、クルマの情報化「テレマティクス」を実現するIoTサービスの開発、提供に力を入れている。「IoTという言葉が社会に浸透する以前から、専用車載機によってクルマをモニタリングするサービスを展開してきました。この分野で10年以上の実績があります」と同社の上野 真氏は強みを述べる。

2008年に提供を開始し、クルマの位置情報やCO₂排出量などを可視化できる「テレマティクスサービス」をはじめ、最新の技術を取り込みながら、年々、進化してきた。

最新のオールイン型テレマティクスサービス「CiEMS 3G」は、通信モジュールを内蔵したコンパクトな車載機を通じて運転データをクラウドに収集。リアルタイムな位置情報や運転経路、運転状況などの一括管理を実現する。

「例えば、速度超過、急アクセルや急ブレーキ、長時間のアイドリングなどが発生すると、その情報を記録するとともに即座に通知メールが管理者へ送信されます。危険運転の発生位置、社用車の現在位置もWeb画面のマップ上で確認できます」（上野氏）

収集した情報は単にドライバーの管理だけでなく、教育などにも活かされる。運転傾向を分析して数値化するほか、性格分析のように『温和なシカ』『臆病なヒツジ』『荒々しいオオカミ』などタイプ別に分類。「ドライバーにリスクの傾向や運転技術の改善につながる気づきを与えることができます」と同社の水上 智則氏は説明する。それ以外にも、ドライバーの運行日報を自動で作成。手書きで作成する手間を簡略化する機能も備えている。

対策

顧客を待たせない対応の速さを評価 ビジネスパートナーとしても期待

このCiEMS 3Gを実現する上で最大のポイントとなったのが、車載機とクラウドをつなぐ回線をどうするかという点だ。

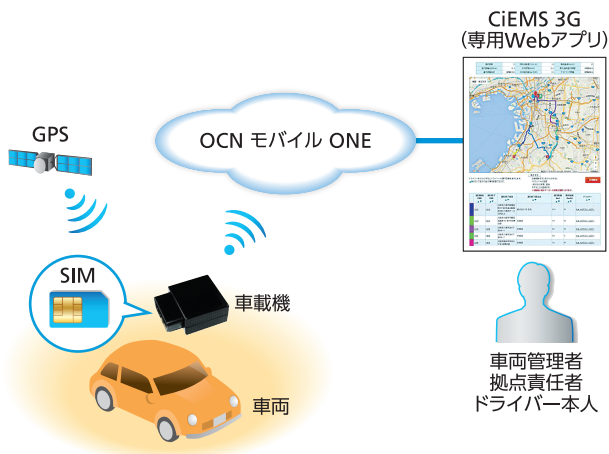
同社には、Wi-Fiとスマホを組み合わせて通信を行うサービスもある。しかし、ドライバーは運転の度にスマホアプリを立ち上げなければならない上、全員にスマホを支給しなければならないという事情があった。

「そこで、近年、普及が進むデータSIMと3Gモバイル回線の利用を決めました。とはいえ、通信コストが高額だとサービス導入の大きなハードルになる上、『当たり前につながる』通信の安定性なども重要な要件でした」と上野氏は振り返る。

複数のサービスを比較検討し、同社が採用したのがNTTコミュニケーションズ(以下、NTT Com)の「OCN モバイル ONE for Business」である。車載機に内蔵するSIM、エリアカバー率が高いモバイル通信サービスを低コストで提供してくれる点に加え、迅速な対応力が高い評価につながった。CiEMS 3Gは、顧客に提供する前にアクティベートされたSIMカードを車載機に組み込まなければならない。「その点、NTT Comは申し込みからSIMカードの提供までが非常にスピーディ。お客さまを待たせないサービス展開が可能となります」と水上氏は話す。

加えて、同社はNTT Comを単なる回線事業者としてではなく、ビ

図 「CiEMS 3G」のソリューション構成



通信モジュールやGPSを内蔵した専用車載機を車両のOBDコネクタに接続。この専用車載機が位置情報や走行情報などのデータを収集し、3Gのモバイル回線を介してデータセンターに集約。収集したデータは専用アプリケーションで分析され、Web画面上で確認できる

ジネスパートナーとしても信頼しているという。

「NTT Comは、IoT関連のさまざまなサービスを提供し、実績や知見も豊富です。互いの強みを活かすことで、新しいサービスや価値の提供が可能になると考えました。例えば、近年、トラクターやフォークリフトなどを扱う車両メーカーが車両の作動ログを把握し、故障や事故を未然に防ぐサービスの提供に力を入れています。そうしたお客さまの多くが海外への商圏拡大を考えており、当社にとっても大きなチャンス。グローバルにサービスを展開するNTT Comなら、当社の今後の事業展開を力強くアシストしてくれると期待しています」と上野氏は語る。

効果

事故の減少や車両管理の効率化に貢献 アプリのOEM供給でビジネスも拡大

CiEMS 3Gは、「社員の安全・安心を守ることは企業の責任」と考える多くの企業に評価され、すでに4,000台を超える導入実績がある。例えば、食品メーカー大手ミツカンのグループ会社Mizkan Partnersでは、CiEMS 3Gで得られる運転データをドライバーの運転指導に活用。運転状況を可視化するとともに数値に基づく指導を行うことで、危険運転の抑止効果が高まり、事故の減少につながったという。

即席ラーメンを中心とする食品加工会社のマルタイは、ドライバーの運転指導のほか、車両管理にも活用。各営業所の管理者は日々の運行状況を日報で把握できるため、余裕を持ったスケジュール管理が可能。ドライバーの負荷軽減に貢献している。

同社が期待したNTT Comとのパートナーシップについても大きな成果につながった。同社の知見が詰まったアプリケーションをOEMとしてNTT Comに提供。そのアプリケーションとNTT ComのVPNサービス、クラウド基盤を組み合わせ、車両運行管理のIoTプラットフォームサービス「Vehicle Manager」を実現したのである。NTT Comは、閉域網を使ったセキュアな通信で車両管理を行いたい企業などに提案を行っていく。

今後も同社はNTT Comのソリューションを活用しながら、CiEMS 3Gを積極的に提案していく。「その中で、大いに期待しているのがNTT ComのSIM提供スピードのさらなる向上です。あらかじめSIMを提供してもらっておき、私たちの手元で開通手続きを簡単に行えるサービスが始まると聞いています。開通するまでは、通信料が課金されないので、手元に在庫を抱えることができ、より迅速にサービスを提供できるようになると考えています」と水上氏は期待を述べる。

CiEMS 3Gの使い勝手と機能・性能の向上を図りながら、同社はNTT ComとともにIoTビジネスのさらなる成長を目指していく。

お問い合わせ先

NTTコミュニケーションズ株式会社

法人のお客さまお問い合わせ窓口 [法人コンタクトセンター]



0120-106107

受付時間 9:30~17:00

※携帯電話、PHSからもご利用いただけます。土・日・祝日・年末年始は休業とさせていただきます。

ホームページ

www.ntt.com/bmobile

4204600588

事例紹介 スマートバリューさま (IoT/テレマティクス)

●記載内容は2017年1月現在のものです。

●表記のサービス内容は予告なく変更することがありますので、お申し込み時にご確認ください。

●フリーダイヤルのサービス名称とロゴマーク  はNTTコミュニケーションズの登録商標です。

●記載されている会社名や製品名は、各社の商標または登録商標です。

2017.1

Copyright © 2017 NTT Communications